虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です。

虹の架橋

第２８８号
令和元年8月1日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL 0277−73−1212
Fax 0277−70−1066

今月の題字
品川知一（ともかず）さん
（桐生市相生町）

今年の６月から「わたらせ渓谷鐵道」の社長に就任した品川さんとは同じ高校のＯＢ同士。地元のことをよく知っている新社長に大きな期待を寄せています。

胡弓の音色と情緒溢れる踊り　ながめに「おわら風の盆」

ながめ余興場に「越中八尾おわら風の盆」がやってきます。

おわら風の盆は哀調を帯びた胡弓や三味線の音色に合わせて唄う「越中おわら節」と編み笠を深くかぶった男女の情緒溢れる踊りが評判を呼び、人口二万人の町に全国から二十万人以上もの観光客が訪れる日本有数の祭り行事です。

八尾町は聞名寺の門前町として栄えた町です。今回、ながめ余興場に出演する聞名寺風の盆講中と越中八尾おわら道場は、おわら風の盆の歴史と伝統をしっかりと守り続けている団体です。

ながめ余興場で「おわら風の盆」が開催されることになったきっかけは越中八尾おわら道場代表の庵進（いおり　すすむ）さんがＮＨＫ・ＢＳプレミアムの「新日本風土記」で紹介されたながめ余興場とながめ黒子の会の活動に興味を持ったことからでした。ご夫妻でながめ余興場を訪れて一目で気に入り、ながめ黒子の会のメンバーとも意気投合して今回の芝居小屋での開催が決まりました。

今回の公演では、女踊り、男踊り、唄い手、囃子、三味線、胡弓、太鼓など総勢十八名が出演。本場のおわら風の盆を観られる貴重な公演ですので是非多くの皆様のご来場をお待ちしています。入場券は昼の部（十五時開演）、夜の部（十九時開演）とも千円。足利屋、アスクに券があります。

小耳にはさんだ　いい話
（文責・靖）《288》

『いっくん』

兵庫県の西村徹さんは小学校の先生。「さくら」というハガキ通信を発行しており、いつも感動的なお話や気づきや学びをいただいています。

「さくら」三七二号には西村先生の家族五人が「しゃんらん」という中華の店に行った時のことが書かれています。

家族で食べていると、テーブルに男の子がやってきました。私たちのテーブルの席に座り、スマホを見始めます。しばらくすると厨房の方へ行き、また来て席に座ります。その男の子は「しゃんらん」のお子さんで「いっくん」という小学二年の男の子。バスや電車が好きで、スマホでその動画を見ていました。次女がいっくんに手を向けると、いっくんがタッチ。初めて出会ったようには思えません。テーブルに一枚の紙が置いてあり、こう書いてあります。

「いっくんは言葉を話すことが出来ません。たまに、お手伝いをしたいのですが、汚れた手でお茶やおしぼりを出すこともあります。『きちんとする』ことができない いっくんなので、彼がもし指が浸かったままでお水を出しても、いちど『ありがとう』と受け取ってほしいのです。後からすぐに交換いたします。きちんとできない いっくんですが、少しずつ『できる』を積み重ねたいと思います。そのためにお客様のご協力が必要になります。どうぞあたたかい目でご協力をお願いいたします。当店は障害を持つ方やそのご家族を積極的に受け入れています。垣根を跳び越えて、みんなが楽しめる場所が増えるといいなというのが当店の願いでもあります」

西村先生はこれを読んで、「いっくんに対する深い愛を感じると共に『しゃんらん』が繁盛し『しゃんらん』のようなお店が増えることを願いました」という感想が綴られていました。

西村先生が書いた「教師の作法・修養」という本には、「朝起きると私は必ず仏壇に手を合わせますが、これは、両親に、ご先祖様に今日という日をいただいたことを感謝するためです。教師としてというよりも、人間として、両親に、ご先祖様に常に感謝できるようにと思っています」と書かれています。「親思う心にまさる親心」という親子愛の一句を思い出しました。

世界一小さな足利屋トイレ美術館
今月の絵《288》
筑井孝子さん『大間々祇園神馬』

三九〇年目の大間々祇園祭の開幕です。今年も八月二日には本町通りを神馬（じんば）が勇壮に走り抜け、獅子頭をのせた当番町の山車を先頭に神輿渡御が行われ、一丁目から七丁目の山車が連なり、祭りは最高潮を迎えます。

この絵は「三方良し」の会が水彩画家の筑井孝子先生に原画を依頼し、絵はがき集「大間々物語」に収めた十六枚の中の一枚です。絵はがき集の中には大間々祇園祭の伝統的な神輿渡御の絵も入っています。「大間々物語」は一セット五〇〇円で足利屋・アスクでも好評販売中。

靖ちゃん日記

令和元年七月二十日（土）

岡直三郎商店（河内屋）の木桶の廃材を固めてつくったウッドチップブロック二百十一枚と国銀足尾線の枕木四十五本を使って河内屋木道「桶の細道」をつくり直した。ウッドチップブロックは、群馬大学の板橋英之教授が開発したスグレモノで、廃材の再利用と除草効果とCO2削減で地球温暖化防止にも効果がある。

白壁の仕込蔵から漂う醤油の香りやレトロな雰囲気の三方良しの井戸、その隣の銭湯・千代の湯の煙突も趣きがある。芭蕉のように桶の細道で一句浮かぶかと思ったが、今日は気温が三十度。額に玉の汗が浮かんだが、一句は浮かばなかった。

今日の参加者は、三方良しの会の会員ら三十名。子供たちも楽しそうに手伝ってくれた。この子たちが今の我々の年齢になっても桶の細道が残っているだろうか。地球温暖化が解消し世界が平和になり、この細道が「OKの細道」になっていてほしい。

今の夢思い出したき夏布団

最近は年のせいか夜中にトイレに起きるようになりました。その時に見ていた夢の続きを見たいと思ってもそれが思い出せないというのも年のせいかもしれません。この時期はトイレに起きると窓の外が明るくなっていることもあります。寝床に戻り、布団をかぶって「あと一時間寝られる」と喜んでいるうちに夢を思い出すことすら忘れてすぐに寝入ってしまいます。

幸いなことに「快食、快眠、快便」です。「かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心」が健康の秘訣かもしれません。

虹の架橋 ⇧ 検索 で、インターネットからでもご覧いただけます。

第二八九号は九月一日（日）発行予定です。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん